



カテゴリ: サステナビリティ

長崎空港では初となる、高純度バイオディーゼル燃料「B100燃料」の、 空港内作業車両での実証実験を開始

JALはCO2排出削減への取り組みの一環として、長崎空港配備の空港内作業車両「トーイングトラクター^(*)」に「高純度バイオディーゼル燃料」濃度100%の「B100燃料」を使用する実証実験を2022年10月1日より1年間にわたり開始します。

(*)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

「高純度バイオディーゼル燃料」は、廃食用油・植物油を原料とするバイオ燃料のうち、バイオディーゼル燃料の成分である脂肪酸メチルエステル(以下、「FAME」)の精製純度を99.9%という極限まで高純度・高品質化した燃料です。「FAME」は、原料となる植物油の生産にあたって、菜種などの植物が成長過程でCO2を吸収していることから、ライフサイクルでのCO2排出量を実質ゼロにすることができます。「B100燃料」は、家庭や飲食店などでの植物油など、生活の中から排出される廃棄物をリサイクルする地産地消の循環型エネルギーで、軽油と比べて1リットル当たり2.62kgのCO2排出量削減の効果が見込めます。

本実証実験では、専用のトーイングトラクターを1台設定し、年間を通して継続的に「B100燃料」のみを使用することで、エンジンへの影響などを検証し、安定運用に向けた知見を得ることを目的としています。なお、実施にあたっては、一般社団法人高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会^(*)の会員である有限会社鶴丸設備(長崎県平戸市)が「B100燃料」の製造・供給を、金子石油株式会社(長崎県大村市)が給油を担当します。

(*)高純度バイオディーゼル燃料の製造量拡大・普及・利用推進を目指し結成された団体。全国約60社の参加により運営(燃料製造業、建設業、廃棄物処理業、石油流通業等が加盟)

JALは、今後も空港内車両のCO2排出量削減に向けた取り組みを推進し、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

1. 期 間
2022年10月1日 ~ 2023年9月30日(1年間)
2. 対象空港
長崎空港(長崎県大村市箕島町 593)
3. 実験内容
高純度バイオディーゼル燃料(リーゼル)濃度100%の「B100燃料」をトーイングトラクターに使用
4. 対象車両
長崎空港配備 JAL トーイングトラクター 1台
5. 問い合わせ先
日本航空株式会社 長崎支店(095-872-8200)

